

第 17 回尖石縄文文化賞

受賞者：大竹幸恵

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月30日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人計14件である。

候補者の内訳は、30歳代から80歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第17回尖石縄文文化賞の受賞者として、大竹幸恵氏（長野県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏の研究は、長野県長和町の星糞峠黒曜石原産地において、地下に埋もれた黒曜石を縄文時代の人々が掘り出した採掘址群の発掘調査によって、初めて黒曜石採掘の具体的な方法や繰り返される採掘活動の実態に迫るものである。

また、そうした研究活動を通じて原産地遺跡の保存に取り組み、星糞峠黒曜石原産地遺跡の国史跡指定に尽力した。加えて、長和町立星くずの里たかやま黒曜石体験ミュージアムの設立とそこを拠点とする教育普及活動にも精力的に取り組んだ。その活動は海外への情報発信と協力関係を推進し、2014年にはイギリスのセンスベリー日本藝術文化研究所と「教育と地域の歴史遺産の研究に関する学術協定」の締結にいたった。

こうした氏の研究や教育普及活動は、縄文人の行動や社会の解明に取り組んだ研究内容と、その成果を一般市民に広く普及することに尽力した宮坂英弑の業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿うものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2016年8月30日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第17回受賞者 大竹幸恵氏